

# 銅、国際価格の騰勢続く

## 産地の供給減少を懸念

銅の国際価格が騰勢を強めている。足元では銅地金の荷余り感があるものの、ストライキや生産トラブルによる供給減少懸念が根強い。底堅い需要に生産が追いつかないと、今年も供給不足になる可能性もあり、ファンダなど投機資金の買いを誘っている。国際価格の高騰は国内価格にも波及し、高値による買い控えから需要が後退するとの見方も出ている。

### 現物需要を冷やす材料に



国際価格指標となるロンドン金属取引所（LME）六日に前日比三〇％高の一・三六六〇ドルと年初に比べ二五・七％高い。同日は一時、三六七〇ドルまで上げ三営業日連続の最高値更新となった。銅地金の需要は相場高騰

で中国の買い意欲が鈍っているが、世界的に堅調だ。米国の住宅着工件数が高水準で欧州の景気も回復の兆しが見られる。「年初には欧米の銅需要が減少するとの見方が多かったが、足元では昨年と同水準に戻っている」（住友金属鉱山）との見方が多い。

供給面ではインドやタイの精錬所の設備トラブルや北米の鉱山労働者によるストライキなど供給

後退懸念がある。古い生産設備の稼働率が高くなっているのも懸念材料。LMEでは、銅相場が高騰しているため、生産者のヘッジ（保険つなぎ）取引が低迷し、ほとんどがファンダによる売買になっていると指摘する市場関係者は多い。供給減少懸念から強気に傾いたファンダの買いが新たな買いを呼ぶ状態になっており、足元の需給を離れた上昇が続いている。

日本ではマンションや工場の新築が増え、電線は「前年を上回る引き合

いがある」（東京の電線メーカー）が、伸銅品の生産量は六月まで七月月連続で前年実績を下回っている。電子部品向けの在庫調整が長引いているのが影響している。ただ伸銅品の銅条（一・五×一〇〇ミ）はLME相場上昇に伴い、現在一・六六百五十五円（中心値）と年初に比べ一四％高い。一部の需要家は高値で仕入れた地金が在庫になることを嫌い、調達を最小限に抑えようとしている。すでに需給の逼迫（ひっばく）感は後退。先高観は薄らいでおり、現物の手当てを急ぐ必要もない。需給とかけ離れた銅相場の高騰が買い控えを招き、地金の需要を冷や込ませる可能性があるとのみ関係者は多い。

### 銅・亜鉛建値上げ

日鉱金属、三井金属

日鉱金属は十七日、銅の山元建値を一万円引き上げ、一・四十八万円に

亜鉛の山元建値を四千円上げ、同十八万九千円にした。ともに国際価格指標となるロンドン金属取引所（LME）相場が上昇したことを反映した。建値の引き上げに伴い、国内商社出し値（置き場渡し）は同日、銅が前日比五千円高の一・四十五万七千一・四十五万九千円、亜鉛が同四千円高の同十八万一千八百二十円になった。